



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：大統領選挙の公式結果と分析

6月3日、大統領選挙委員会は大統領選挙（5月26～28日）の公式結果を発表した。同結果は、事前に各紙報道で報じられた非公式結果とほぼ同じ数字である。大統領選挙委員会が発表した県別データを投票率と両候補者の得票率に分けて分析した結果、2つの特徴が見えてきた。

【表1 大統領選挙公式結果】

有権者登録数	53,591,273	
投票総数	25,260,190	
投票率	47.13%	
有効票	24,223,780	
無効票	1,036,410	(4.10%)
スィーサー	23,483,476	(96.94%)
サツバーヒー	740,304	(3.06%)

【表2 投票率によって県を並べ替えた場合】

県名	投票率	スィーサー	サツバーヒー
メヌフィーヤ	62.60	98.62	1.38
ポート・サイド	61.39	97.11	2.89
ガルビーヤ	59.41	97.94	2.06
ダカハリーヤ	55.56	97.87	2.13
カリュービーヤ	55.23	97.62	2.38
ダミエッタ	53.85	97.39	2.61
シャルキーヤ	53.83	97.83	2.17
カイロ	51.50	96.57	3.43
イスマーイーリーヤ	50.51	96.79	3.21
アレキサンドリア	50.20	96.61	3.39
カフル・シェイフ	47.34	94.03	5.97
スエズ	46.48	96.07	3.93
ベヘイラ	45.82	97.42	2.58
南シナイ	45.46	94.34	5.66
ワーディー・ゲディード	43.67	95.59	4.41
ギザ	42.44	96.21	3.79
紅海	41.58	95.81	4.19
ベニ・スウェーフ	39.95	96.15	3.85
ルクソール	39.69	97.50	2.50
アスワン	35.95	97.12	2.88
ミニヤ	35.40	95.84	4.16
ソハーグ	34.75	96.41	3.59
北シナイ	34.65	95.43	4.57

ケナ	33.75	97.15	2.85
アシュート	33.10	95.28	4.72
ファイユーム	30.46	96.05	3.95
マルサ・マトルーフ	26.99	94.89	5.11

(1) 投票率が最大の違い：デルタ地方で高投票率

スィーサーとサツバーヒーの得票率は県ごとに目立った違いは見られない。スィーサーの得票率は 94.03～98.62% (差は 4.59 ポイント)、サツバーヒーの得票率は 1.38～5.97% (差は 4.59 ポイント) である。しかし県別投票率は 26.99～62.60% と大きな開きがあり、全体で 35.61 ポイントもの差があった。デルタ地方で最も投票率が高く (表 2: カイロ・アレキを除くメヌフィーヤからベヘイラまで)、中～南部では投票率が低かった (表 2: 北シナイ・マトルーフを除くベニ・スウェーフからファイユームまで)。カイロ、ギザ、アレキサンドリアの大都市圏は中間の投票率であった。

(2) 投票率が高い県ほど、スィーサー支持率が高い

次に投票率と得票率の関係を見ると、投票率が高いデルタ地方で最もスィーサー票が多いことが分かる。ルクソール、アスワン、ケナなど南部県でもスィーサーの得票率は高いが、ここは投票率がデルタ地方の半分である。よってデルタ地方で最もスィーサー支持率が高いと言える。デルタ地方はムスリム同胞団の支持基盤だが、同時にムスリム同胞団を嫌うリベラル派も多い (2012 年大統領選挙ではアフマド・シャフィークの得票率が高かった)。さらにスィーサーを支持するサラフィー主義のヌール党の支持基盤でもある。そのため、デルタ地方でスィーサー支持に向けた有権者の動員が行なわれたと考えられる。

中部～南部で投票率が低かった理由は何か。ムバーラク時代、中～南部は旧与党 NDP の地盤として常に高い与党支持率を誇っていた。スィーサーはムバーラク体制出身の軍人といっても過言ではなく、そうであれば中～南部でスィーサー票の動員がもっと行なわれてもよかつたはずである。しかしそうではなかったということは、旧 NDP 票の動員役であった地元有力者は、今次大統領選挙でスィーサー票の積極的動員を行なっていないことになる。ムルスィー政権下で行なわれた 2012 年憲法国民投票では賛成票が南部で多かったこと、しかし 2014 年の憲法国民投票では中～南部で投票率が低かったことを考えると、この地はイスラーム主義勢力の支持基盤になっており、そのため投票率が低く、スィーサーの支持率が低かったと考えられる。

以上の分析結果から、スィーサー政権が安定した政権運営を行なうためには、中～南部の支持獲得が重要となる。中～南部は貧困世帯が多い地域であり、常に開発の必要性が指摘されてきた。当地におけるイスラーム主義勢力の影響力が強いのであれば、これまで後回しにされてきた南部開発を本格化し、住民の支持を獲得する必要がある。

(金谷研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799